

## 令和元年度セクシュアル・ハラスメント及び体罰に関する実態調査の結果について（概要）



令和元年度に実施した，公立学校の児童・生徒及び職員を対象としたセクシュアル・ハラスメント及び体罰に関する実態調査の結果がまとまりましたので，その概要を報告します。

この調査は，各学校が，学校におけるセクハラ及び体罰に関する実態を把握し，効果的に防止策を講じ，よりよい学校環境をつくるために実施しているものです。

### 1 調査方法等

#### (1) 調査対象

千葉市立学校及び市立高等学校を除くすべての公立学校に在籍する児童・生徒（対象人数は，484，947人）及び職員（対象人数は，県立学校においては，12，101人）

#### (2) 調査対象期間

平成31年4月1日（月）から回答日まで

#### (3) 実施期間

令和元年12月2日（月）から令和2年1月31日（金）まで

#### (4) 実施方法

##### ア 児童・生徒

学校生活におけるセクハラ，体罰及びセクハラ以外のハラスメントについて，アンケートにより，調査する。

##### イ 職員

セクハラに関する実態をアンケートにより，調査する。

### 2 調査結果の概要

#### (1) セクハラ実態調査の結果について

##### ア 児童・生徒

セクハラと感じて不快であったと回答した児童・生徒の割合は，平成30年度と比較してほぼ変化はなく，100人当たり0.1人であった。ただし，実数で見ると，平成30年度の424人から588人に164人増加している。

- ・高等学校生徒0.2人（0.3人）
- ・特別支援学校児童・生徒0.1人（0.3人）
- ・小学校児童 0.04人（0.02人）
- ・中学校生徒 0.2人（0.1人）

※数字は児童・生徒100人当たりの人数，（ ）内は平成30年度

主な回答は，「性的な話・冗談等を言われ，不快であった。」，「必要以上に身体に触られ不快であった。」，「みんなの前で容姿を話題にされ，不快であった。」というものであり，ここ数年変わりが無い。

また，セクハラ以外のハラスメントを受けて不快であると感じた児童・生徒の割合は，100人当たり0.3人（実数では，1，331人）あり，回答の多くは「性格や能力を否定されるようなものの言い方をされた。」，「先生が大声で怒鳴ったり，乱暴な言葉を発する。」等といった教員の発言や対応等によるものであった。（平成30年度は実数で993人）

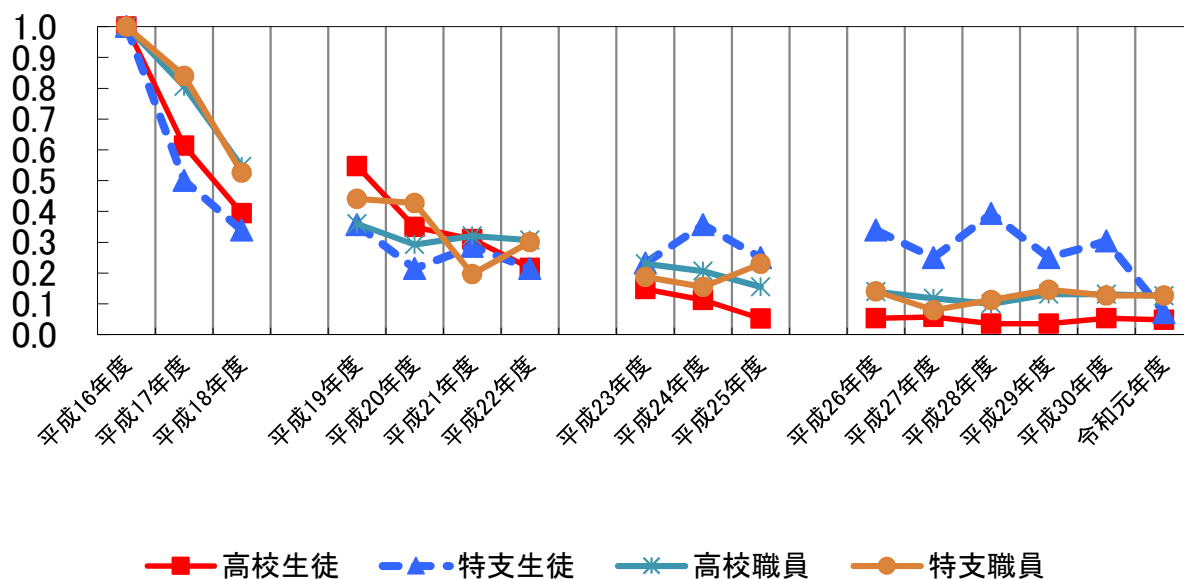
調査結果を踏まえ児童・生徒本人と面談をする等状況を確認したところ、教諭によるセクハラ案件が1件確認され、厳正に処分を行った。

なお、県立高等学校、特別支援学校の児童・生徒のセクハラ相談員（悩みごと相談員）の周知率（相談員を知っている率）が、平成30年度の68.4%から71.0%へ上昇した。引き続き、周知率の向上に取り組んでいく。

#### イ 職員

県立高等学校、特別支援学校では、91人の職員がセクハラであると感じたと回答した。平成30年度の94人と比較すると3人減少している。

セクハラと感じ不快であったと回答した人数の割合の変化（平成16年度を1とした場合）



#### (2) 体罰実態調査の結果について

アンケート調査の結果、1件が報告された。調査を始めた平成24年度の54件と比較すると、大きく減少している。

- ・高等学校生徒 1件（1件）
- ・特別支援学校児童生徒 0件（0件）
- ・小学校児童 0件（0件）
- ・中学校生徒 0件（0件）

※（ ）内は平成30年度

### 3 今後の対策

セクハラ及び体罰の根絶に向けて、引き続き、セクハラ防止に向けたパンフレットやリーフレットを活用し、教職員及び児童・生徒への啓発を図るとともに、教職員に対し、参加型の研修を行うこと等により、教職員一人一人の倫理観の高揚を図る。また、児童・生徒の人権意識の高揚も図っていく。

問い合わせ  
 教育振興部教職員課管理室  
 電話 043-223-4036

# 令和元年度セクシュアル・ハラスメント及び体罰に関する実態調査の結果について【データ編】

## 調査方法等について

### 1 調査対象

すべての公立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に在籍するすべての児童・生徒及び職員（千葉市立学校及び市立高等学校を除く。）を対象とし、児童・生徒においては、「学校生活アンケート」として実施。

※ただし、産休、育児休業、休職、療養休暇中の職員は除く。特別支援学校の生徒については、家庭に持ち帰る等の対応による調査を行った。

※体罰調査は、職員には実施していない。

※義務教育学校の人数は、当該小中学校に含めて集計を行った。

※調査対象期間は、平成31年4月1日（月）から回答日までである。

＜回答者数＞公立学校児童生徒数合計：459,478名

高等学校生徒 89,549名 特別支援学校児童生徒 5,379名

小学校児童 248,896名 中学校生徒 115,654名

県立学校職員数合計：11,596名

高等学校職員 7,602名 特別支援学校職員 3,956名

中学校職員 38名

※市町村立の小学校・中学校・特別支援学校の回答職員数は未集計。

＜調査学校数＞学校数合計：1,151校

市町村立小学校 667校 市町村立中学校 320校

市町村立義務教育学校 2校 市町村立特別支援学校 2校

県立中学校 2校 県立高等学校 122校

県立特別支援学校 36校

### 2 実施期間

令和元年12月2日（月）から令和2年1月31日（金）まで

### 3 実施方法

#### (1) 児童・生徒

学校生活におけるセクハラ、体罰及びセクハラ以外のハラスメントについて、アンケートにより、調査する。

#### (2) 職員

セクハラに関する実態をアンケートにより、調査する。

### 4 男女別在籍者数及び回答者数

#### (1) 児童・生徒

生徒		県立高等学校			特別支援学校		
年度	性別	在籍者数	回答者数	回答率%	在籍者数	回答者数	回答率%
令和元年度	男子	46,482	44,620	96.0%	4,018	3,634	90.4%
	女子	46,751	44,929	96.1%	1,953	1,745	89.3%
	合計	93,233	89,549	96.0%	5,971	5,379	90.1%
平成30年度	男子	47,571	45,316	95.3%	4,032	3,556	88.2%
	女子	48,109	46,225	96.1%	1,919	1,693	88.2%
	合計	95,680	91,541	95.7%	5,951	5,249	88.2%

児童・生徒		小 学 校			中 学 校		
年度	性別	在籍者数	回答者数	回答率%	在籍者数	回答者数	回答率%
令和 元 年度	男子	134,940	126,626	93.8%	63,562	59,253	93.2%
	女子	127,072	122,270	96.2%	60,169	56,401	93.7%
	合計	262,012	248,896	95.0%	123,731	115,654	93.5%
平成 30 年度	男子	135,163	127,051	94.0%	63,894	59,556	93.2%
	女子	128,427	123,062	95.8%	60,358	56,711	94.0%
	合計	263,590	250,113	94.9%	124,252	116,267	93.6%

(2) 教職員

職 員		県 立 高 等 学 校			県 立 特 別 支 援 学 校		
年度	性別	在籍者数	回答者数	回答率%	在籍者数	回答者数	回答率%
令和 元 年度	男性	5,352	5,165	96.5%	1,585	1,538	97.0%
	女性	2,579	2,437	94.5%	2,547	2,418	94.9%
	合計	7,931	7,602	95.9%	4,132	3,956	95.7%
平成 30 年度	男性	5,395	5,170	95.8%	1,554	1,471	94.7%
	女性	2,917	2,471	84.7%	2,476	2,351	95.0%
	合計	8,312	7,641	91.9%	4,030	3,822	94.8%

職 員		県 立 中 学 校		
年度	性別	在籍者数	回答者数	回答率%
令和 元 年度	男性	26	26	100%
	女性	12	12	100%
	合計	38	38	100%
平成 30 年度	男性	26	26	100%
	女性	12	10	83.3%
	合計	38	36	94.7%

※小学校・中学校は、それぞれの市町村で集計している。

**セクハラ実態調査の集計結果について**

1 児童・生徒編

(1) 回答者数及びセクハラと感じたと回答した人数

年度	性別	令和元年度			平成30年度		
		回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合%	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合%
高等学校 (県立)	男子	44,620	47	0.1%	45,316	64	0.1%
	女子	44,929	162	0.4%	46,225	166	0.4%
	合計	89,549	209	0.2%	91,541	230	0.3%
特別 支援学校 (県立、市立)	男子	3,634	2	0.1%	3,556	9	0.3%
	女子	1,745	5	0.3%	1,693	8	0.5%
	合計	5,379	7	0.1%	5,249	17	0.3%
中学校 (県立、市町 村立)	男子	59,253	103	0.2%	59,556	36	0.1%
	女子	56,401	173	0.3%	56,711	85	0.1%
	合計	115,654	276	0.2%	116,267	121	0.1%

小学校 (市町村立)	男子	126,626	42	0.03%	127,051	17	0.01%
	女子	122,270	54	0.04%	123,062	39	0.03%
	合計	248,896	96	0.04%	250,113	56	0.02%
合計		459,478	588	0.1%	463,170	424	0.1%

※セクハラと感じて不快だったと回答した児童・生徒の人数が、全体として増加した。

※調査結果を踏まえ各学校で追跡調査を行ったところ、教諭によるセクハラ案件が1件確認され、厳正に処分した。

【全体】100人当たり0.1人(0.1人) ※小数点第2位を四捨五入 ( )内は平成30年度  
(2) セクハラと感じて不快だったと回答した項目

※各学校種において、アンケート内で示したセクハラ例の回答人数の多い順に並べている。

①高等学校(回答人数209) \*セクハラと感じ不快だったと回答した生徒の人数(複数回答)

項目	男子	女子	合計
・性的な話・冗談等を言われ、不快であった。	10	37	47
・必要以上に身体に触られ、不快であった。	7	39	46
・みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。	5	26	31
・男のくせに、女のくせに等と言われ、不快であった。	7	9	16
・性的な内容の電話・手紙・電子メール等をもらい、不快であった。	1	1	2
・性的な関係を求められ、不快であった。	1	0	1
・その他	33	66	99

②特別支援学校(回答人数7) \*セクハラと感じ不快だったと回答した児童・生徒の人数(複数回答)

項目	男子	女子	合計
・必要以上に身体に触られ、不快であった。	1	2	3
・性的な話・冗談等を言われ、不快であった。	0	2	2
・みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。	0	1	1
・男のくせに、女のくせに等と言われ、不快であった。	0	0	0
・性的な内容の電話・手紙・電子メール等をもらい、不快であった。	0	0	0
・性的な関係を求められ、不快であった。	0	0	0
・その他	11	2	13

③中学校(回答人数276) \*セクハラと感じ不快だったと回答した生徒の人数(複数回答)

項目	男子	女子	合計
・必要以上に身体に触られ、不快であった。	48	76	124
・性的な話・冗談等を言われ、不快であった。	18	25	43
・みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。	13	26	39
・男のくせに、女のくせに等と言われ、不快であった。	3	8	11
・性的な内容の電話・手紙・電子メール等をもらい、不快であった。	1	1	2
・その他	6	32	38

④小学校(回答人数96) \*セクハラと感じ不快だったと回答した児童の人数(複数回答)

項目	男子	女子	合計
・必要以上に身体に触れられ、不快であった。	16	24	40
・みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。	9	12	21
・性的な話・冗談等を言われ、不快であった。	4	5	9
・性的な内容の電話・手紙・電子メール等をもらい、不快であった。	2	0	2
・男のくせに、女のくせに等と言われ、不快であった。	1	0	1
・その他	14	23	37

### (3) セクハラと感じ不快だったと回答した件数が多かった項目の推移

セクハラと感じ不快であったと回答した主な項目は、前年度と同じ傾向であった。

- ① 県立高等学校生徒 \* ( ) 内は、平成30年度。
- ・「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」 0.05% (0.06%)
  - ・「必要以上に身体に触られ、不快であった。」 0.05% (0.05%)
  - ・「みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。」 0.03% (0.04%)
- ② 特別支援学校児童・生徒
- ・「必要以上に身体に触られ、不快であった。」 0.06% (0.06%)
  - ・「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」 0.04% (0.06%)
  - ・「みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。」 0.04% (0.11%)
- ③ 中学校生徒
- ・「必要以上に身体に触られ、不快であった。」 0.11% (0.04%)
  - ・「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」 0.04% (0.05%)
  - ・「みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。」 0.03% (0.01%)
- ④ 小学校児童
- ・「必要以上に身体に触られ、不快であった。」 0.02% (0.01%)
  - ・「みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。」 0.01% (0.00%)
  - ・「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」 0.00% (0.00%)

※生徒の回答について内容を調査したところ、授業中の職員の冗談や教材の説明の中での性的な言動や、部活動及び服装頭髮指導等の生徒指導の場面における教職員の対応を不快と感じたものが多かった。

### (4) セクハラととらえられた具体的な事柄（県立学校生徒の回答の趣旨の抜粋）

- ・身体をなでるように見られる。
- ・タックルの練習中抱きつかれた。
- ・部活動の大会で男性顧問が女子更衣室に入ってきた。
- ・部活の休憩中に、頭を触られた。
- ・スカートの下に穿いていたジャージのことで注意をされ、その場で、ジャージを脱ぐときに、注意をした先生に見られていて嫌だった。
- ・大学合格後に、〇〇大学は女子を取りたがっているからと性差別的なことを言われた。
- ・授業中の全体に向けての話で、身体的内容があり自分は不快だった。
- ・講演会で講師が話す性的内容が不快であった。
- ・保健の授業で答えづらい質問をされた。
- ・授業の発問で回答しにくいことを言わせようとした。
- ・先生が不必要に生徒の髪や体を触っていやがっているのをみた。
- ・女子に「腹が出ている」と言っていたのを聞いた。
- ・男性職員が女子生徒の頭をなでるのをみて不快に感じた。
- ・コンプレックスでありそうなことを皆の前で言われるのを見た。
- ・教員が女子生徒に身体的な話題をしているところを見た。
- ・男性の先生に下の名前と呼ばれている人がいた。
- ・特定の女子だけ下の名前と呼ぶ。
- ・女子と話す時だけニヤニヤして気持ち悪い。男女で対応に差がある。
- ・先生方からのボディタッチが多い。
- ・頭をポンと触られたことがある。

## 2 教職員編

### (1) 回答者数及びセクハラと感じたと回答した人数

職 員		令和元年度			平成30年度		
年度	性別	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合 %	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合 %
県立 高等学校	男性	5,165	9	0.2%	5,170	14	0.3%
	女性	2,437	55	2.3%	2,471	53	2.1%
	合計	7,602	64	0.8%	7,641	67	0.9%
県立 特別 支援 学校	男性	1,538	9	0.6%	1,471	3	0.2%
	女性	2,418	18	0.7%	2,351	24	1.0%
	合計	3,956	27	0.7%	3,822	27	0.7%
県立 中学校	男性	26	0	0%	26	0	0%
	女性	12	0	0%	10	0	0%
	合計	38	0	0%	36	0	0%
合計		11,596	91	0.8%	11,499	94	0.8%

※セクハラと感じて不快だったと回答した職員の人数は、減少した。  
 ※調査結果を踏まえ各学校で追跡調査を行ったところ、深刻な問題はなかった。

### (2) セクハラと感じて不快だったと回答した項目

※各学校種において、アンケート内で示したセクハラ例の回答人数の多い順に並べている。

#### ① 県立高等学校(回答人数64) \*教職員や生徒からセクハラを受けたと回答した職員の人数(複数回答)

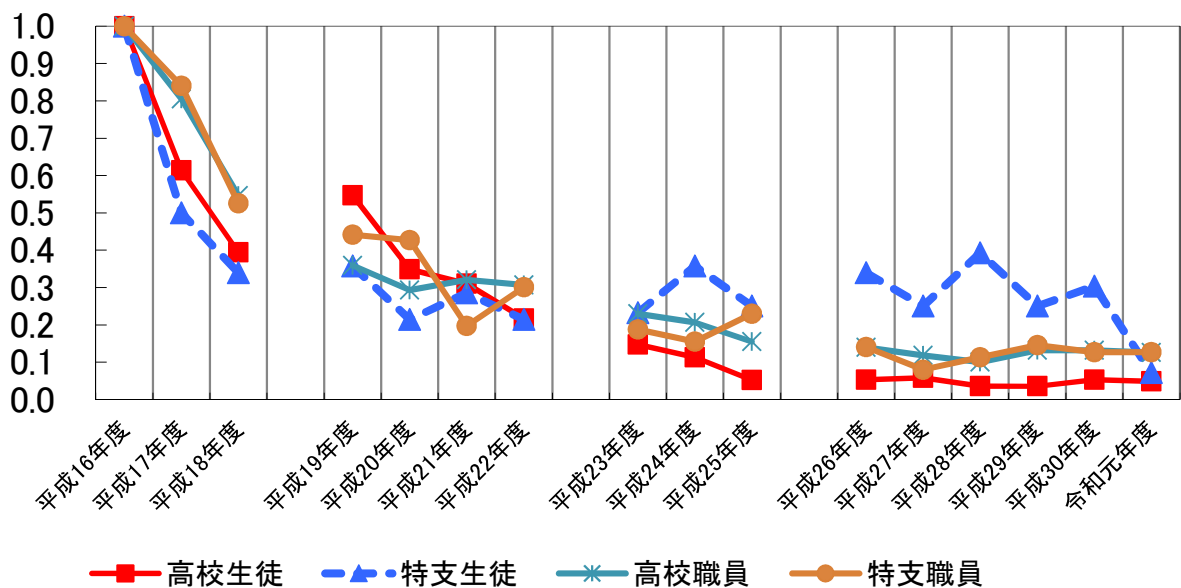
項 目	男性	女性	合計
・容姿・年齢・結婚・妊娠等を話題にされ、不快であった。	8	25	33
・性的な話・冗談等を言われたりメール等を送られ、不快であった。	4	8	12
・必要もないのに身体に触られ、不快であった。	1	5	6
・性体験や性的なことについて聞かれ、不快であった。	3	0	3
・執ように交際を迫られ、不快であった。	1	0	1
・性的なうわさを流され、不快であった。	0	1	1
・お酌、カラオケのデュエット、ダンス等を強要され、不快であった。	0	1	1
・執ように携帯電話の番号やメールアドレスを聞かれ、不快であった。	1	0	1
・裸や水着のポスターやパソコンの画面を見せられ、不快であった。	0	0	0
・性的な関係を求められ、不快であった。	0	0	0
・上記のことをされ、拒否すると人事や仕事上で不利になると言われた。	0	0	0
・その他	3	18	21

②特別支援学校（回答人数 27）＊教職員や生徒からセクハラを受けたと回答した職員の人数（複数回答）

項 目	男性	女性	合計
・容姿・年齢・結婚・妊娠等を話題にされ、不快であった。	2	8	10
・性的な話・冗談等を言われたりメール等を送られ、不快であった。	0	3	3
・必要もないのに身体に触られ、不快であった。	2	0	2
・執ように交際を迫られ、不快であった。	1	1	2
・性体験や性的なことについて聞かれ、不快であった。	0	0	0
・性的なうわさを流され、不快であった。	0	0	0
・お酌、カラオケのデュエット、ダンス等を強要され、不快であった。	0	0	0
・裸や水着のポスターやパソコンの画面を見せられ、不快であった。	0	0	0
・執ように携帯電話の番号やメールアドレスを聞かれ、不快であった。	0	0	0
・性的な関係を求められ、不快であった。	0	0	0
・上記のことをされ、拒否すると人事や仕事上で不利になると言われた。	0	1	1
・その他	3	6	9

※職員の回答について内容を調査したところ、生徒からの言動、性別による役割分担を不快と感じたとするものがあつた。

3 セクハラと感じ不快であったと回答した人数の割合の変化（平成16年度を1とした場合）





#### 4 セクハラ相談員の周知について

##### セクハラ相談員を知っていると回答した児童・生徒数と周知率

校種 年度	県立高等学校		県立特別支援学校		全体の 周知率
	人数	周知率	人数	周知率	
令和元年度	65,335名	73.0%	1,777名	35.4%	71.0%
平成30年度	64,059名	70.0%	1,883名	38.5%	68.4%
平成29年度	62,523名	68.1%	1,937名	39.4%	66.6%
平成28年度	60,381名	65.1%	1,588名	33.6%	63.6%

##### ●セクハラ相談員の周知率について

- ・高等学校と特別支援学校を合わせた全体のセクハラ相談員の周知率は、平成30年度の68.4%から71.0%となった。高等学校では、周知率が3.0ポイント増加し、特別支援学校では、3.1ポイント減少した。今後も集会等でのセクハラ相談員の紹介や平成27年度に配布した「わいせつ・セクハラ防止リーフレット～不祥事根絶に向けて～」,「学校からセクハラをなくすために県立学校生徒用リーフレット なくそう!セクハラ」を活用する,担任が周知する等して,引き続きセクハラ相談員の周知率向上に努め,生徒が相談しやすい環境を作ることが重要である。
- ・なお,市町村立小学校は69.8%から71.7%,市町村立中学校は65.4%から65.2%であった。

#### 5 記名の状況について

※平成18年度調査から アンケートについては,原則記名としている。

生徒	県立高等学校		県立特別支援学校	
	記名した生徒の割合	セクハラを受けたと回答した生徒のうち記名した生徒の割合	記名した生徒の割合	セクハラを受けたと回答した生徒のうち記名した児童・生徒の割合
令和元年度	96.8%	56.0%	92.8%	66.7%
平成30年度	94.8%	50.0%	92.6%	76.5%
平成29年度	96.1%	53.6%	92.5%	64.3%
平成28年度	94.3%	43.9%	92.3%	68.2%

記名した効果(複数回答)\*回答数 174

( )内は平成30年度

・真面目に記入するようになり信頼性が向上した。	60件	34.5%	(61件	34.9%)
・迅速で的確な対応が可能となった。	56件	32.2%	(37件	21.1%)
・セクハラの実態把握が難しくなった。	3件	1.7%	(0件	0%)
・セクハラ抑制効果があった。	0件	0%	(0件	0%)
・その他	34件	19.5%	(41件	23.6%)

#### 6 調査結果に基づき,その後実施した対策の概要について

##### (1) 生徒に対して ※各学校から記述回答されたものを分類

項目	高等学校	特別支援	全体
セクハラを受けたと記入した生徒本人と面談し,事情を聞いた。	63.8%	27.8%	56.3%
無記名の被害生徒に,相談を受けるよう呼びかけた。	6.5%	5.6%	6.3%
文書や放送等でセクハラ相談窓口の周知徹底を図った。	2.2%	2.8%	2.3%
集会やホームルームで,全生徒にセクハラ防止の指導をした。	1.4%	0.0%	1.1%
セクハラ防止のポスターや文書を作成し,掲示または配布した。	0.0%	0.0%	0.0%
その他	3.6%	0.0%	2.9%

##### (2) 教職員に対して

- ・全教職員に調査結果を知らせ,セクハラ防止に向け,注意を喚起したり,研修を実施したりしている。

【参考】セクハラ実態調査の効果について(各学校で記述回答されたものを集計し,その概要を分類)

- ・全体の94.3%の学校において,セクハラ実態調査は,セクハラ行為に対する抑止力となる,ハラスメントに対する意識が高まる等の面で効果があるとの回答があった。
- ・セクハラ調査を年間複数回実施した方が良いとの意見があった。
- ・風通しの良い職場づくりが,セクハラ防止の上でも効果があるとした意見が多くあった。

7 セクハラ以外のハラスメントを受け不快であると感じた回答数 \*平成28年度からの設問

●セクハラ以外のハラスメントを受け不快であると感じた人数について

児童・生徒においては、特別支援学校の割合が最も高く0.5%（26件）であるが、平成30年度調査0.8%（42件）から減少している。この他、高等学校は約0.3%（274件）、小学校は0.3%（778件）、中学校は0.2%（253件）であった。なお、各学校でセクハラ相談員等が、追跡調査等を行ったところ、教員から児童・生徒に対するセクハラ以外のハラスメントの具体的な相談について、深刻な内容はなかった。

生徒		県立高等学校			特別支援学校		
年度	性別	回答者総数	回答数	割合%	回答者総数	回答数	割合%
令和元年度	男子	44,620	116	0.3%	3,634	16	0.4%
	女子	44,929	158	0.4%	1,745	10	0.6%
	合計	89,549	274	0.3%	5,379	26	0.5%

(295)

(42)

児童・生徒		小学校			中学校		
年度	性別	回答者総数	回答数	割合%	回答者総数	回答数	割合%
令和元年度	男子	126,626	385	0.3%	59,253	127	0.2%
	女子	122,270	393	0.3%	56,401	126	0.2%
	合計	248,896	778	0.3%	115,654	253	0.2%

(512)

(144)

職員		県立高等学校			県立特別支援学校		
年度	性別	回答者総数	回答数	割合%	回答者総数	回答数	割合%
令和元年度	男性	5,165	96	1.9%	1,538	17	1.1%
	女性	2,437	80	3.3%	2,418	39	1.6%
	合計	7,602	176	2.3%	3,956	56	1.4%

(113)

(81)

( )内は平成30年度

セクハラ以外のハラスメントの具体的な事柄の例（県立学校生徒の回答の趣旨の抜粋）

- ・授業中に、「馬鹿野郎」「学校やめろ」と言われた。
- ・「てめえ」と大きな声で呼ばれた。
- ・授業中、咳をただけで怒鳴られうるさいと言う。
- ・担任からの高圧的な物の言い方が不快である。
- ・何もしていないのにどなられた。
- ・口が悪くて不快になる。
- ・クラスの仲間に対して、乱暴な言動の時がある。
- ・生徒に対し「馬鹿」という言葉を口癖のように使う先生がいて不快である。
- ・担任に性格を決めつけられた
- ・人格否定された。
- ・解けない問題があると威圧する。
- ・授業中、勉強で「あなたが分からないことが分からない」と言われた。ショックでその後質問がしづらい。
- ・「おまえは何も頑張っていない」と言われた。
- ・授業中トイレに行った際、時間を計られた。
- ・部活動中、顧問が友達に「へたくそ」と言いすぎる。
- ・体罰ではないですが、先生が感情的になっているのを見たことがある。
- ・「勝手にして」等の暴言、赤ちゃん扱いをする。
- ・学級担任の言葉がきつく、嫌な気持ちになる。
- ・クラスの仲間に対して乱暴な言動の時がある。

## 体罰実態調査の結果集計について

### 1 調査内容

千葉市及び市立高等学校を除く、すべての公立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に在籍するすべての児童・生徒及び保護者を対象として、令和元年度中の体罰についてアンケート調査を実施し、新たに体罰の事実を確認した件数及び事案の概要を各県立学校及び各市町村教育委員会から報告する。

### 2 調査結果

実態調査の結果、生徒が体罰として記入したのは1件であった。

なお、平成30年度調査は1件であった。

(1) アンケートから確認し、体罰の疑いがあると報告された件数

学校種	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
令和元年度	0	0	1	0	1
平成30年度	0	0	1	0	1
平成29年度	0	0	0	0	0

(2) 発生の場面について

発生の場面	部活動中	授業中	その他	合計
令和元年度	1	0	0	1
平成30年度	0	1	0	1
平成29年度	0	0	0	0

### 3 体罰の事案での令和元年度中の処分の状況について（令和2年3月31日現在）

(1) 体罰の事案での処分の状況について（事故発生年度と処分年度は一致しない。）

学校種	免職	停職	減給	戒告	訓告等	合計
小学校	0	1	2	0	0	3
中学校	0	0	1	0	2	3
高等学校	0	0	0	0	3	3
特別支援学校	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	3	0	5	9

\*懲戒処分は、小学校3件、中学校1件の計4件を行った。

(2) 体罰の態様について

主な体罰の態様は以下のとおりである。

- ・教諭は、担任をする特別支援学級の児童1名に対し、膝で太ももや腹部を押す、足の裏で臀部を蹴り押す、拳で額をこぶくなどした。
- ・教諭は、担任する児童1名の言動を指導する際、同児童が座っている椅子の脚を蹴る、頬を拳で押す、胸ぐらを掴むなどした。
- ・教諭は、担任をする児童に対し、肘や頭や肩を手で叩いたり、足を蹴るなどした。

#### 4 令和元年度に千葉県教育委員会の実施した体罰根絶の取組例

県初任者研修会や5年経験者研修会及び中堅教諭等資質向上研修会，体育主任研修会等において体罰根絶について指導した。

\*指導の中で，リーフレット「体罰なんかいない！」（平成26年9月作成）を全参加者に提示し，「体罰根絶宣言」の周知徹底を図った。

問い合わせ

教育振興部教職員課管理室

電話 043-223-4036